

令和7年度高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業 生活支援コーディネータースキルアップ研修【基礎研修】実施報告（HP版）

高齢社会の生きがいづくりや地域の支え合い活動を広げるため、地域福祉関係者がそれぞれの役割や地域でのつながりの作り方、仕事の進め方、悩みや不安、解決策を学びあう研修会を開催！

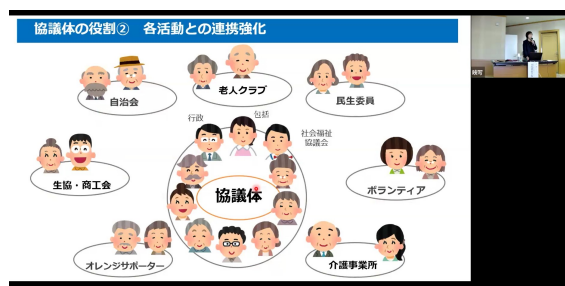
基礎講義では、高齢化に伴う日本の現状や必要とされる仕組みについて触れ、行政が中心となって進めるべき事業や生活支援コーディネーター（以下、SC）と協議体が中心に進めるべき事業等、行政・SC・協議体等の役割を整理。その後、高崎市の生活支援体制整備事業の体制や状況、第1層協議体の立ち上げ期や継続期の取組み、既存の資源や小さな取組みから発展していく第2層協議体の多様な取組みを学びました。グループワークでは、自己紹介や講義の感想、各市町村での取組みや課題等を情報交換し、発表しました。質疑応答も行われ、講師よりたくさんのヒントやアドバイスをいただく、大変有意義な研修となりました！

日時：6月12日（木）13時～16時

会場：遊学館（山形市内）・オンライン

参加者：42名

講師：目崎智恵子氏（高崎市第1層生活支援コーディネーター）



***** 参加者VOICE *****

- ・資料がわかりやすく考えが整理されました。
 - ・ちょっとしたことから初めていくことができそうな気がしました。
 - ・担い手発掘や協力者を募ることが難しいと感じていましたが、あまり難しく考えず、地域に足を運んで相談してみようと思いました！
 - ・高齢者になっても、介護認定を受けても、役割がたくさんある地域、いつまでもお互いさまを感じられる地域づくりを目指したい。
 - ・地域の専門家である地域住民と行政や関係者の得意を活かして協働し、お互いさまの支え合いの地域づくりを推進したいと思いました。
 - ・皆でどこに向かうのか明確にすることが大事との話。今後の方向性も見えてきた気がします！
 - ・1層からつくりあげていく必要はなく、作れる層から構築していくことができると感じました。
 - ・地域ニーズに応じて、多様な活動へつなぐ役割を担いたいと感じました。
 - ・「地域がこうなったらいいよね」が根っこ。地域に戻って、そこから聞いて行こうと思いました。
 - ・声かけ隊やベンチづくり等、できることの活かし方次第で、住民の持つ能力が助け合いにつながる発想を学びました。
- ※この事業は県の委託を受け実施しました。